

町長コラム 温故創新



自分に挑戦 スポーツの力

庄内町長 富樫透

今回より町長コラムとして、日々感じたことなどを、みなさんに伝わるよう書かせていただくことになりました。尚、副題としてみなさんとともに新しいものを作りあげたいとの思いから、温故創新とさせていただきます。

さて、この夏はさまざま意見はありましたが、東京オリンピック並びに東京パラリンピックが開催されました。みなさんも多くの感動をいただいたと思いますが、私自身も連日、選手のみならずスタッフ、ボランティアの方、関わった多くの方から映像を通して、エネルギーを分けたいいただきました。

その中で、誰か一人の話題を挙げるのは非常に難しい事ですが、パラリンピック競泳の成田真由美選手のお話をさせていただきます。成田選手は、アトラクタから4大会で金15個を獲得したレジェンドですが、以前本町にもパラスポーツ普及の講演会でお越しいただき、親近感も感じていました。

障がいのみならず、数々の病気も克服しながらの選手生活でしたが、一度引退された後、後継者不足を感じパラ水泳の魅力発信や自分への挑戦の思いを新たにして、51歳で日本記録を更新した結果には、それまでの道のりを思うと一層、感動と尊敬の思いがあふれてきました。

また、今年立川・余目中学校のみなさんも過去最高の20人が中体連で全国大会出場を果たし、好成績を残していただきましたし、高校総体では庄内総合高校体操部は個人種目別跳馬で3位という素晴らしい成績でした。

それぞれの方々が、目標をたて、自分と向き合って全力を尽くす素晴らしさを教えていただきました。そして、その精神をまちづくりにも思った夏でした。